



黄河の森

K F G

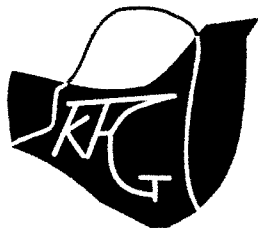
発行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
代表理事／林 同 春
編集責任者／林 青 彦 事務局長

〒650-0011
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11
神戸華僑会館内
TEL・FAX:078-392-8328
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL: <http://www.k3.dion.ne.jp/~kougakfg>
IP:05031111874



よみがえる緑

日中友好林
写真 辻 恵子



ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

- P.2 2006年度 第3回通常総会報告
- P.2 黄土高原を三千年前の姿に
- P.3 馬金山副指揮たち訪日団が神戸へ
- P.3 秋の植樹ワーキングツアーのお知らせ
- P.4 私と環境(5) 丹波市・下滝いろいろ③
- P.4 絵本からのエコ・メッセージⅢ
- P.5 黄土高原の植物Ⅵ
- P.6 黄土高原緑化写真展より
- P.6 経済と環境のバランス

2006年度 第3回通常総会報告

<第2期緑化協力へ前進>

5月20日(土)、神戸中華会館7F東亜ホールにて、黄河の森緑化ネットワーク第3回通常総会が開催されました。会員のほか未加入者も出席され、会員総数285名のうち当日出席会員38名、委任状51名、書面議決による参加86名合計175名で過半数にて総会が成立しました。総会に先立ち、林同春代表理事は、「一人ひとりが汗を流して一本一本と苗を植えて緑をふやす。そしてすばらしい地球へとつながるのは、他ならぬ私達一人ひとりの力であり信念です。そんなすばらしい力を結集して、一本一本

と更にふやして行きますよう願って皆さんと共に一步一步と進んでまいります」とあいさつされました。

総会では2005年度事業・決算・監査報告とその承認、2006年度事業計画と予算の提案、新役員の承認、そして組織運営強化のために定款の一部を変更して、新理事3名の増加の承認が行われました。

総会につづき、鳥取大学山本福壽教授が延安市周辺に残る天然生林の現状と緑化事情をテーマに映像をまじえながら講演されました。

会員総会・講演会終了後、同会館

6Fでの恒例の交流会には会員・新会員42名が参加され、林同春代表理事のあいさつ、徳岡正三顧問の乾杯ではじまり、秋のワーキングツアーや計画行事などを歓談し交流の輪がまた一つ広がりました。



黄土高原を三千年前の姿に

—— 日中合同研究がめざす夢 ——

山本 福壽
(鳥取大学教授)

ここにおられる皆様は、既に中国で緑化活動をされている方々で、黄土高原がなんたるやもよくご存知です。そこで立派に活動をされていることに敬意を表します。

三千年前、春秋時代の頃の黄土高原は、豊かな森林が分布していました。千五百年前の隋、唐になりますと、緑が少なくなってきましたが、まだまだ緑はありました。現在はパッチ状に森林が残っているだけで、殆ど農地と放牧地に変わり、あとは荒漠地です。

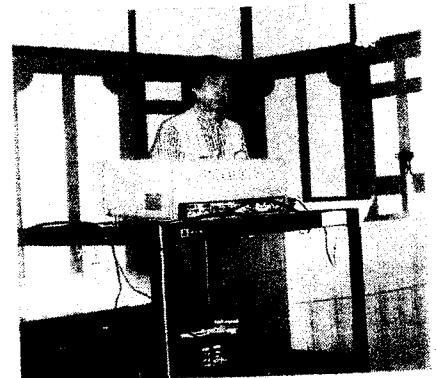
解放軍が日本や国民党と戦うに際して自活のための開墾が非常に熱心に行われました。黄土高原の森林は根こそぎ伐採され、どんどん農地に変えられました。それが食料の生産性をあげる最高の行為として評価をされたのです。一方地表が剥き出しになった大地は黄砂という地球規模的な環境問題を引き起こしました。現在中国政府は「退耕還林」政策を打ち出しています。耕すのは止めて、元の姿の森林に戻そうというものです。

「黄土高原をどうすれば元の姿に戻せるか」が我々の研究テーマです。まず、昔の黄土高原の植物分布を調

査しました。わずかに残る自然林を調べた結果、リョウトウナラ、コノテガシワ、油松、ポプラ、烏柳、旱柳、野生の梨、薔薇、杏、楓、はしばみ、ライラック、ぐみ、榆、ゆすら梅、等々多様な植物で森林が形成されていたようです。次に乾燥に強い植物の調査です。それには、葉の気孔を調べます。自生する黄土高原の植物は、葉の表面にワックスや、毛を纏うことで水分の蒸散を防ぎ、乾燥に対する自己防衛を施していました。

更に何種類もの植物の生理的機能も調べます。朝3時に水分をたっぷり含んだ葉をとり、枯れるまでの時間を測る。この計測は夜の12時ごろまでかかり、翌朝また3時に起きて植物採取に行く。こんな生活が9日間続きました。こうした調査の結果、生理的機能が最も強いのが1杏、2ライラック、3カラガナ、4バラ、5梨と判明しました。皆さんが植えている「コノテガシワ」もかなり強いです。

森林に様々なセンサーを埋め込んで、降水量、土壌中の水の供給量、湿度変化、樹木の体内を流れる水の状況、葉っぱからの水の蒸発量なども



講演される山本福壽先生

調査します。同時に中国側の研究者に委ねて実際の緑化も進めています。造林方法は皆様と同じです。

植樹後、灌水を必要とするのは本当の緑化ではありません。本当の緑化のためには、日生種をいかに回復させるかです。その為には降雨量や地形によって植える植物を選定するなど、プランをきっちりしていく必要があります。詳細な情報を得るために、一本の木の長期計測も大切な作業です。こうした根拠のいる基礎に関する研究とデータの作成が、我々の本分でもあります。

緑化は植えた木が更新して成功だといえます。農地になってしまった所を元の森林の状態に戻すには、植樹が必ず子孫を残し安定した緑地をもたらすこと。三千年前の黄土高原復元を目標に、日中の合同研究が進められています。

10月28日(土) フォーラム開催 馬金山副指揮たち訪日団が神戸へ!

(財)イオン環境財団の助成金による事業として、今年もフォーラム、技術者交流事業を行ないます。今回は特に日中友好林の責任者であります蘭州市南北両山緑化工程指揮部副指揮の馬金山さん、KFGの橋渡し柴生芳さん、林業担当者陳云さん3名を招待しています。またこの機会にと指揮部関係者8人も来日されます。馬金山さんにはフォーラムで蘭州市南北両山の緑化や中国の緑化政策をお話していただきます。

そして、訪日の記念として10月27日(金)に現在植樹中の住吉山手において記念植樹を行ないます。10月29日(日)には会員も参加して、鳥取大学訪問、鳥取砂丘見学。そして、鳥取

温泉での交流会では蘭州でのそれとはひと味違った雰囲気になることでしょう。民間交流を通して、お互いの文化を理解するまたとない機会です。是非会員皆さんの参加をお待ちしています。

●記念植樹

日時：10月27日(金) AM. 10:00

場所：住吉山手

(JR住吉駅より市バスで15分)

集合：JR住吉駅南側 AM. 9:00

●フォーラム

日時：10月28日(土)

PM. 13:00~PM. 17:00

場所：三宮研修センター

(神戸市役所東正面)

☎078-232-0081

詳細はリーフレット参照

●交流会

<第1日目>

日程：10月29日(日)

神戸~姫路城見学~鳥取(泊)

<第2日目>

：10月30日(月)

鳥取大学・鳥取砂丘~神戸

集合場所：ホテルトアロード

☎078-391-6091

費用：¥26,000/1名

※記念植樹、交流会に参加できる方は宿泊・交通手配の関係上、必ず事務局までご連絡ください。

お待ち!

秋の植樹 ワーキングツアーのお知らせ

2006年度

2002年10月より始めました日中友好林への植樹も、今年で5回目となり、目標の13万本の植林も今年度で完了します。黄土高原の緑も少しずつ増えています。

そして、今年には第2期緑化協力へとつながる大切な節目です。また、植樹のあとは会員同士の大切なふれあいの場である中国各地めぐりの旅です。今回は日程に余裕のない会員のために短いプランも企画しました。

<Aコース>

●日程：9月16日(土)~9月24日(日)

上海・蘭州・麗江・香格里拉・上海 8泊9日

●費用：219,000円(各地空港施設使用料・燃油サチャージ・航空保険等は含みません)

●最少催行人員：30名以上

<Bコース>

●日程：9月16日(土)~9月20日(水)

上海・蘭州・天水・上海 4泊5日

●費用：149,000円(各地空港施設使用料・燃油サチャージ・航空保険等は含みません)

●最少催行人員：10名以上

※参加される方は事務局か中華聯旅行社へお問合せを！
ホームページもご覧ください。

林同春代表理事平和賞を受賞

第60回神戸新聞平和、文化、社会、スポーツ賞の表賞式が6月30日に行われ、KFGの代表理事でもあります林同春さんが平和賞を受賞されました。林同春さんは神戸中華同文学校理事長、神戸華僑總會会長などを歴任され、日中友好の架け橋として尽力し、兵庫県と広東省の友好関係樹立と多方面に寄与して来られました。



授賞式の林同春代表

理事は現在100才でお元気なので30年の公約は果たしていただけるでしょう。今後とも会の発展にご尽力をお願いします。なお、賞金のうち20万円をジャワ島中部地震の義援金として寄付されました。また、KFGにも20万円をご寄付いただきました。残りもすべて各方面に寄付されました。

どうもありがとうございます。

私と環境(5) 丹波市・下滝いろいろ ③

KFG会員
村上 鷹 夫

「花祭りと季節の変化」

桜の花が終わり山々が新緑に染まる5月5日に、下滝のお寺臨濟宗妙心寺派微妙寺では、毎年花祭りが行われます。花祭りとは灌仏会のことです。4月8日に釈迦の降誕を祝して行なう法会で、花で飾った小堂（花御堂）を作り、水盥に釈迦の像（誕生佛）を安置し、参詣者は小柄杓で甘茶（正しくは5種の香水）を釈迦像の頭上にそそぎ、また持ち帰って飲む。日本には中国より伝わり606年、元興寺で行なわれたのが最初で寺院・宮廷・民間で広まったと言われています。

本来田舎では旧暦の5月8日にお祭りをするのが、微妙寺では子供達が集まりやすいようにと子供の日の5月5日に行なわれます。小堂を飾る花は、レンゲ・タンポポ・ボタン・シヤガ・アヤメ等が使われます。小堂に飾るレンゲは毎年5月4日の朝、露のある間に我家のレンゲ畑に摘みに来られます。屋根を一杯飾る為のレンゲを露に濡れながら、咲いたばかりの新しい花を選んで摘むのは大変な作業ですので小生も手伝う事があります。

ボタンも下滝の北海道に当る我家の庭に咲く時期が一致するのでよく使われます。そのボタンの花を毎年5月5日に満開の状態を使うには、毎年季節の変化が違う為苦労いたします。

今年は、冬の気温が低かったために我家のボタンは蕾のままです。近所を探してもダメで諦めかけていた所、目当たりの良いある檀家に一輪咲いて救われました。ある年は、何処のボタンも散ってしまい、我家のも傘をさしたりして咲くのを遅くしようと努力するも効果が見えず、咲きかけの2輪をお米の冷蔵庫に入れて保管し、なんとか5月5日まで持たす事が出来ました。自然の変化と季節の移り変わりに対して人間の方ではどうする事も出来ない事が沢山あるように思います。

今年の例をあげてみますと、

- ①梅の開花が遅く、例年より遅れた桜と一緒に梅・スモモの花が咲いていました。
- ②黄砂が非常に多く、下滝でも数回飛んで来ました。特に4月8日は酷く桜の蕾の先にお月さんのような太陽が見えました。私達の「黄河の森緑化活動」も息長く続けることが大

切だと思えます。

③モリアオガエルの産卵も遅く、5月22日頃に少し産みましたが、6月8日になっても何時もの場所に見えませんが、昨夜の雨で今朝5時過ぎに産卵場所に行くと、産卵中の5夫婦を発見し産卵場所4箇所ですべての卵を発見しました。

④一番心配したのは、姫ボタル祭りを前にホタルが遅れた事です。例年なら5月下旬に飛んでいるホタルがやっと6月6日に顔を見る事が出来たか、6月10日の姫ボタル祭りに間にあって一安心です。

⑤嬉しい話を一つ、例年山の上で鳴いていたホトトギスが6月3日頃から、家の前の桜の木に毎日数回以上やって来て大きな声で鳴いてくれます。大きさはヒヨドリと同じ位で肩が張っているように見えますが直ぐに逃げて行くのでユックリ観察できません。鳴き声は「特許許可局」とか「テッペンカケタカ」と聞こえます。



絵本からの エコ・メッセージ Ⅲ

— もりのえほん —

KFG会員 畑 中 弘 子
(児童文学者)

この絵本には字がない。表紙をあけると、草原の中の小さな道と湖と森があらわれる。道は豊かな森へとまらびいていく。木々のみどりがページをめくるごとに変化し、どんどん森が深くなる。太い幹や細くしなやかな枝をながめ、つるが幾重にもまきついた木や奇妙な穴をあけている古木をみつめながら進んでいく。天をかくすばかりに繁った木々のあたりが一番奥の森のようだ。やがてまた道があらわれはじめ、もとの場所へもどってくる。すじがきはこのようなが、文字での案内はまったくない。だがすばらしいしかけがあった！

絵をじっくりとながめてみると…裏表紙にかわいいウサギとカメがひそんでいるではないか！最初のページにはサイとカンムリヅルとリスと…なんとこの「もりのえほん」の中に、100数種類ものいきものたちがいる。いえ、いきいきと活動しているのだ。動物たちの生命は、まさに豊かな森から生まれてくるといわんばかりのみごとさである。ゾウもラクダもペンギンもネコもイヌもカエルもアリも…。最後のページをかざっているのは人間。それも美しい女性の横顔であった。好きな動物をじっくりと、「もりのえほん」のなかにさがしてみるのも楽しいかもしれない。



「もりのえほん」 安野 光雅 福音館書店

黄土高原の植物VI

檉条(ネイジョウ)

KFG顧問 徳岡正三(元高知大学農学部森林科学科教授、農学博士)

黄土高原の各地で日本のボランティア団体が緑化支援活動をしている。中でも有名なのが山西省の大同を拠点にしている「緑の地球ネットワーク」(略称GEN)である。事務局長の高見邦雄氏は1か月に数回ペースで、最新の現地体験などを記した「黄土高原だより」を電子メールで配信されている。そのNo.351(2005年10月11日付)に、「1999年、2001年に大旱魃があって、低木や草が枯れたが、ムレスズメ(檉条)はまったくダメージが感じられなかった」との紹介があった。今回は、このようにちとつとやそつとの乾燥に動じることなく、たくましく成長する檉条(ネイジョウ)をとりあげてみたい。檉条は私たちの蘭州でも利用されている。檉条はまた前号で紹介した紅沙(ホン・シャー)とともに三水工程(会報vol.4参照)で用いられる植物でもある。

「檉条研究」(科学出版社、2003年)という本がある。檉条は低木であり、低木1種だけを解説した本は、筆者の知る限り、ほかにはガミ科低木の沙棘(シャー・ジー)しかない。檉条がいかに注目されている木の1つであるかが分かる。

筆者は黄土高原の北に広がるオールドス高原で檉条をはじめて見たが、オールドス高原はもとより中国北方のどこでも見ることができる、と断言していいぐらいポピュラーな木である。私たちの日中友好林では、最近檉条のタネが蒔かれたと聞くので、今年9月のツアーで目にするができるかもしれない。くどいが、中国北方の乾燥した荒地の緑化にとって檉条は極めて重要な植物なのである。

さて、檉条はこれまで紹介したニセアカシアやイチハギと同じくマメ科に属する。私たちは毎日の生活で加工品を含めマメ類をよく食べている。私たちは何かにつけマメ科の植物のお世話になっている。それはともかく、実は檉条と言う名前は1つの植物を指すときと、ムレスズメ属の総称として使われるときがある。話がややこしいが上掲の「檉条研究」によると中国には66種類のムレスズメ属植物が分布しており、その1種に檉条という名の低木がある。檉条は1つの植物でもあり、ムレスズメ(中国名は錦鶏児(ジン・ジル))属の通称としても使われる。ちなみに、ムレスズメ(群雀)という名は、たくさん並んで咲く花をズメの群れに見立てたことに由来していると言う。と言うことで、檉条にもいろいろ



あるが、小葉錦鶏児、中間錦鶏児、檉条(毛条とも呼ばれる)の3種が緑化によく使われる。筆者の「砂漠化と戦う植物たち」(研成社、2003年)の表紙カバーを飾っているのが小葉錦鶏児である。蘭州の檉条がどのような檉条なのか現在不明であるが、また分かり次第お知らせしたい。

とにかく檉条は低木ではあるが、土地の固定や改良だけでなく、家畜の飼料になるなど多くの働きがある。蘭州でもその効用を存分に発揮してくれるものと期待したい。

六甲山クリーン&グリーン活動

六甲山系クリーンベルトの森づくり

—住吉山手3期植樹—

前回まで2回の植樹個所の下草刈りと今回は2期より上流で植樹を実施します。コナラ、ヤマザクラ、スダジイなど200本を植えます。10月27日(金)の記念植樹もここでを行います。

- 日時 2006年10月1日(日)下草刈り
10月27日(日)記念植樹
- 日時 2007年2月18日(日)下草刈り
3月4日(日)植樹準備
3月18日(日)植樹作業
- 集合 JR住吉駅南側 AM.9:00
- 服装 長袖・帽子
- 持参品 弁当・水筒・タオル・軍手

*参加される方は事務局までご連絡ください!

第6回

六甲山クリーンアップ活動

—身近にできることから始めよう—

- 初秋に清掃ハイイクで汗を流し、あとは有馬温泉でスッキリしませんか!
- 日時 2006年10月15日(日)
 - 集合 阪急園本駅 AM.9:00
 - 参加 約1時間 小部決行
 - コース 阪急園本駅→打切峠→五助野堤→七曲りを経て六甲最高峰→有馬(解散後有馬温泉へ)
 - 持参品 弁当・水筒・雨具・タオル
ビニール袋・軍手
 - リーダー 安本 昭久
 - サブリーダー 矢野 正行



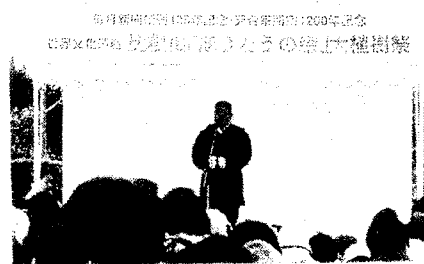
クリーンアップに参加の会員たち



下草刈りに汗を流す会員たち

ほうとうの森 大植樹祭

世界文化遺産の比叡山延暦寺周辺の森林に広葉樹の苗木を植える比叡山「ほうとうの森」大植樹祭が5月27日に行われ、全国から約1200人が1万2000本を植樹した。KFG11人も参加し、カシヤシイなど1人10本程植えました。



植樹指導・宮崎 昭(横浜国立大学名誉教授)

黄土高原緑化写真展より

毎年総会開催時に中華会館やフォーラム会場、そして日新信用金庫でも何度か催させていただいております、おなじみの写真展です。

これからもワーキングツアーで出会った友人の顔、旅先での風景などお寄せ下さいませ。

旅行の思い出があせない時期に事務局まで届けていただければと思っています。



「カシュガルの街角で」
辻 恵子



▲「カシュガルのバザール」 梶谷 公哉



▲「シルクロードの母子」 高岡 秀行



▲「夏・秋とも参加の同僚」 日高 隆哉



▲「大事な水で育つコノテガシワ」 麦 兆良



経済と環境のバランス

KFG会員 上田 苑江

先日TVの下キメメンタリー番組を観ていて、内モンゴル自治区が砂漠化しているのを知った。

一人の青年が細い木の枝を振りながらヤギを追っている。土埃を巻きあげて歩くヤギの足許には、一向に青草はなく、乾いた砂地が続いている。1980年代からこの地の砂漠化は始まったという。羊飼いの青年は「ヤギをたくさん飼いすぎたから」と砂漠化の原因を話した。彼等は金になるカシミヤヤギを過剰に放牧した。カシミヤヤギは草を根こそぎ食べるのだそうだ。私達がカシミヤヤギの柔らかい手触りを楽しみ求めている間、モンゴルの草原は丸裸になり、不毛の地になってしまった。経済発展の裏に痛々しい地球の姿がある。

KFG事務局からのお知らせとお願い

会報と同封しています「2006年度会費のお願い」の通り、2006年度も皆さんのご協力が得られれば、予定通りに2007年10月緑化協力金は精算金100万円にて完遂となります。そして第2期緑化協力は新にゼロからの出発となります。ボランティア活動に伴う財源困難と人材不足は、いわば双子の赤字のようなものです。KFGがここまで来られたのも会員の皆さんの地球環境改善に少しでも役に立てればとの気持ちだと思います。今年度もイオン環境財団よりの助成金がありますが、これはあくまで申請事業分に対するものであって、緑化支援金には使用できません。そういう厳しい台所の事情をご理解の上少しでも多くの支援協力をお願いします。



おすすめ情報

宇宙（人工衛星が撮影した写真）から私たちの日中友好林とおぼしきところを俯瞰することができます。インターネットで接続できる方で、まだ Google Earth (グーグル アース) を使ったことがない方はWindows XPで以下の操作を行なってください。1. Google Earthのホームページを開きます。2. 右上のGet Google Earth Free Versionをクリックします。3. 右上枠内のDownload Google Earthをクリックします。4. A3D interface to the planet が出たら click here to start it をクリックします。5. ファイルのダウンロード-セキュリティの警告が出たら、実行をクリックします。6. 後は画面の指示にしたがって進めます。まずは画面の下にある操作パネルを片端から触ってみてください。中国をズームインしてLanzhouと表示のあるところが蘭州市です。その北へ北北西30キロあたりに日中友好林があると思うのですが、